

## カンタータ第 147 番《心と口と行いと生きざまをもって》BWV147

J.E.ガーディナー指揮の同曲CD[POCA-1043] 添付解説・礒山雅氏、  
歌詞対訳・萩野（参考：上記・礒山雅氏の訳）

《心と口と行いと生きざまをもって》と題するカンタータが書かれたのは、バッハのヴァイマル時代末期、1715年の待降節第 4 日曜日（12月20日）を控えた頃である。ヴァイマルの宮廷詩人、ザーロモン・フランク(1659-1725)の台本（1717年に出版された詩集『福音派の日曜祝日の礼拝』Evangelische Sonn- und Festtages-Andachten に収められている）に基づくこのヴァイマル最後のカンタータ(BWV147a)は、冒頭合唱、4つのアリア、終結コラールの6曲から成り、コラールは現行のものとは別曲であった。しかしこの稿は、完成には至らなかつたらしい。それは、バッハが逝去した楽長、S.ドレーゼの後任に指名されないことを知り、職務に情熱を失ったためと推測されている。今日みる美しいコラールが採り入れられたのは、1723年、すなわちライプツィヒ時代初年次における改稿のおりであった。

トーマス・カントルに就任し、ほぼ毎週カンタータを演奏しなくてはならなかつたバッハは、BWV147aを、「マリアの訪問の祝日」（当年は7月2日）へと転用することにした。なぜならば、ライプツィヒにおいては、待降節期間のカンタータ演奏が粛せられていたため、そのままではBWV147aが宝の持ち腐れになってしまったからである。訪問の祝日用の新しい歌詞（作者は不詳）は二部分から成り、両部分をあらたに、マルティン・ヤーンが作詞したコラール「わが魂の喜びなるイエスよ」Jesu, meiner Seelen Wonneが締めくくった。これが、管弦楽の美しい演奏を伴う、あの有名な形に仕上げられたわけである。アリアはすべてBWV147aからの歌詞を変えた転用であるが、これらをつなぐレチタティーヴォは、すべて新作された。なお、現在みる自筆総譜の清書が完成したのは、1728～31年頃のことである。これは、冒頭合唱のみで中断されていたヴァイマルでの作業を、新たに再開してのことであった。この後1736～40年に、再演が行われている。

マリアの訪問の祝日で朗読される福音書章句は、ルカ伝第 1 章の第39～56節である。ここは天使ガブリエルによるマリアへの受胎告知に続く部分で、マリアのエリザベト（洗礼者ヨハネの母）訪問と、有名なほめ歌（マニフィカト）を含んでいる。すなわちマリアは、エリザベトから受胎を祝福され、感動して神に、讚美の言葉を歌うのである。この喜ばしい情景を、カンタータのテキストは人間の罪深い現状と比較し、しだいに、イエスへの愛情と讚美をあふれさせてゆく。4つのアリアは前半が短調の女声曲、後半が長調の男声曲とて配分されており、それらはいずれも、あの有名なコラールへと収斂する。

### 第 1 曲 合唱 八長調

トランペット・ソロによって華やかに導入される合唱曲。弦と通奏低音の他、2本のオーボエがヴァイオリンを補強し、ファゴットが独立したパート譜によって加わる。キリスト者への教訓的な勧めを述べるテキストは合唱フーガとして扱われ、そこから、「キリストこそ神であり救い主である」という信仰告白の内容が、印象深く浮かびあがってくる。確信と「恐れと偽善」の音楽的対比も、注目に値する。

Herz und Mund und Tat und Leben  
muß von Christo Zeugnis geben,  
ohne Furcht und Heuchelei,  
daß er Gott und Heiland sei.

心と口と行いと生きざまが  
キリストの証を与えてくれるだろう、  
恐れも偽善もなしに、  
キリストこそ神であり救い主である、と。

### 第 2 曲 レチタティーヴォ（テノール）

弦の伴奏をもつテノールの語り、マリアの神讚美の情景へとわれわれをいざなう。語りの口調は後半、一転して厳しくなり、あまりにも対照的な人間の罪深さが指摘される。

Gebeinedeiter Mund!

祝福された口よ！

Maria macht ihr Innerstes der Seelen  
durch Dank und Rühmen kund;

マリアは魂の深奥にあるものを  
感謝と讚美をこめていいあらわした。

sie fänget bei sich an,

彼女はおのが身に即して

des Heilands Wunder zu erzählen,

救い主の不思議な業を語りはじめた、

was er an ihr als seiner Magd getan.

主が婢女である自分になされたことを。

O! menschliches Geschlecht,

おお、人類よ、

des Satans und der Sünden Knecht,

悪魔と罪のしもべよ、

du bist befreit

お前は解放されたのだ、

durch Christi tröstendes Erscheinen

キリストの心慰める出現によって、

von dieser Last und Dienstbarkeit!

重荷と隷属から！

Jedoch dein Mund und dein verstockt Gemüte

それなのに、お前の口とかたくなな心は

verschweigt, verleugnet solche Güte;

沈黙し、これほどの慈しみを拒んでいる。

doch wisse, daß dich nach der Schrift

だが知るがよい、聖書によれば、お前に

ein allzu scharfes Urteil trifft.

あまりにも厳しい裁きがかかることを。

### 第3曲 アリア（アルト） イ短調

オーボエ・ダモーレに伴奏された、アルトのアリア。第1曲で掲げられた信仰告白の勧めが、魂に対して内面化されて語られる。4分の3拍子と2分の3拍子の間をゆれ動くゆったりしたりリズムは、魂の俊巡を反映したものだろうか。

Schäme dich, o Seele, nicht,

恥じるな、おお魂よ、

deinen Heiland zu bekennen,

救い主を言いあらわすことを、

soll er dich die Seine nennen

もしも救い主に自分をわがものと

vor des Vaters Angesicht!

父の御前で呼んでほしいのならば、

Doch wer ihn auf dieser Erden

この世で救い主を

zu verleugnen sich nicht scheut,

拒んではばからぬ者は、

soll von ihm verleugnet werden,

救い主に必ずや拒まれるだろう、

wenn er kömmt zur Herrlichkeit.

彼が栄光の座におつきになる時。

### 第4曲 レチタティーヴォ（バス）

通奏低音のみの伴奏によるセッコであるが、バスの語りのみならず低音部にも、神の権勢を示す絵画的表象があらわれる。テキストはいうまでもなく、マリアの「マニフィカト」に出る、神の権能の描写をふまえている。

Verstokkung kann Gewaltige verblenden,

かたくなさはともすれば権勢ある者を盲目にし、

bis sie des Höchsten Arm vom Stuhle stößt;

ついには至高者の腕が彼らを位から引き下ろす。

doch dieser Arm erhebt,

その御腕が高めるのは、

obschon vor ihm der Erden Kreis erhebt,

たとえ全地が御前で震えても、

hingegen die Elenden, so er erlöst.

心ある貧しい人々のみ救い主はあがなわれる。

O hochbeglückte Christen,

高き幸いにあずかるキリスト者たちよ、

auf, machet euch bereit,

さあ備えなさい、

itzt ist die angenehme Zeit,

今こそ望ましい時、

itzt ist der Tag des Heils:

今こそが救いの日。

Der Heiland heißt euch Leib und Geist  
mit Glaubensgaben rüsten,  
auf, ruft zu ihm in brünstigem Verlangen,  
um ihn im Glauben zu empfangen.

救い主は肉体と霊を、  
信仰の賜物をもって装うことを命じられる。  
さあ、憧れを燃え立たせて救い主に呼びかけ、  
堅い信仰のもとに彼を迎えなさい！

### 第5曲 アリア(ソプラノ) 二短調

ここで「信じる魂」がイエスに、親密に語りかける。音楽には、第3曲に比べてこまやかな流れが一貫しており、独奏ヴァイオリンの3連符はあたかも、慈愛の湧き出るがごとくである。通奏低音は8分音符の歩みで、主の示した「道すじ」を提示する。

Bereite dir, Jesu, noch itzo die Bahn,  
mein Heiland, erwähle die gläubende Seele  
und siehe mit Augen der Gnaden mich an.

備えよ、イエスよ、今もなおあなたの道すじを。  
救い主よ、この信じる魂を選んでください。  
そして恵みの眼で私をご覧ください。

### 第6曲 コラール(合唱) ト長調

ヤーンのコラール「わが魂の喜びなるイエスよ」(1661)の第6節が、ヨーハン・ショップの旋律(ふつう《雄々しかれ、わが心よ》Werde munter, mein Gemüteで知られるもの、オルガン編曲はBWV1118)に乗せて歌われる。トランペットが、コラール旋律を重複する。弦合奏(オーボエが重複)による流麗な前奏・間奏の、なんと喜ばしく美しいことであろう。

Wohl mir, daß ich Jesum habe,  
o wie feste halt' ich ihn,  
daß er mir mein Herze labe,  
wenn ich krank und traurig bin.  
Jesum hab' ich, der mich liebet  
und sich mir zu eigen giebet;  
ach drum laß ich Jesum nicht,  
wenn mir gleich mein Herze bricht.

イエスと共にいる私は幸である、  
おお私は何と固くイエスを守るか、  
イエスは私の心を慰めてくださる、  
病める時も悲しい時も。  
私はイエスと共に居て、イエスは私を愛し、  
私に身を委ねてくださる。  
ああ、だから私はイエスを放さない、  
たとえ私の心が張り裂けそうな時にも。

### 第7曲 アリア(テノール) ヘ長調

カンタータの第2部は、説教後、聖体拝領を控えて演奏される部分。通奏低音を伴った簡潔なテノール・アリアがまず歌われる。「助けて、イエスよ、助けてください」の句がモットー風に扱われ、他の部分は一貫して、通奏低音の豊かなフィギュレーションに彩られている。

Hilf, Jesu, hilf,  
daß ich auch dich bekenne  
in Wohl und Weh,  
in Freud und Leid,  
daß ich dich meinen Heiland nenne  
im Glauben und Gelassenheit,  
daß stets mein Herz von deiner Liebe brenne.

助けてイエスよ、助けてください、  
この私もあなたを言い表せるように、  
幸いの時にも災いの時にも、  
喜びの時にも悲しみの時にも、  
私があなたを救い主と  
信頼と落ち着きの中で呼べるように。  
この心がいつもあなたの愛で燃え上がるように。

### 第8曲 レチタティーヴォ(アルト)

福音書章句の語るマリアのエリザベツ訪問のくだりをふまえたレチタティーヴォ。2本のオーボエ・ダ・カッチャが始終むつまじく寄り添うのは、イエスとヨハネの相似と出会いを象徴するものだろうか? 「ヨハネは動き、跳ね、躍った」のくだりが目にもあざやかに描きだされたあと、アルトの語り口は、しだいに熱を加える。

Der höchsten Allmacht Wunderhand  
wirkt im Verborgenen der Erden.  
Johannes muß mit Geisterfülle werden,  
ihn zieht der Liebe Band  
bereits in seiner Mutter Leibe,  
daß er den Heiland kennt,  
ob er ihn gleich noch nicht  
mit seinem Munde nennt,  
er wird bewegt, er hüpfet und springet,  
indem Elisabeth  
das Wunderwerk ausspricht,  
indem Mariae Mund  
der Lippen Opfer bringet.  
Wenn ihr, o Gläubige,  
des Fleisches Schwachheit merkt,  
wenn euer Herz in Liebe brennet,  
und doch der Mund  
den Heiland nicht bekennet,  
Gott ist es, der euch kräftig stärkt,  
er will in euch des Geistes Kraft erregen.  
ja, Dank und Preis auf eure Zunge legen.

いと高き全能者の不思議な手は、  
世界のひそみに働く。  
かくて、ヨハネは霊に満たされた。  
愛の絆が彼を、  
母の胎にいるときからつないでいた。  
だからヨハネは救い主を知っていた、  
いまだその御名を  
自らの口で言い表わすことこそなかったが。  
ヨハネは動き、跳ね、躍った、  
エリザベトが  
不思議な業のことを語り出し、  
マリアの口が、  
唇の捧げものを献上した時。  
おお、信ずる者たちよ、  
お前たちが肉の弱さに気づく時、  
まだ心が愛に燃えているのに  
口が救い主を言い表わそうとしない時、  
われわれを支え、力づけてくれるのは神である。  
神はお前たちのうちに霊の力を喚起し、  
感謝と讃美を、下からほとばしらせてくださる。

### 第9曲 アリア（バス） 八長調

トランペットが響き、冒頭の八長調が回復される。しかしその内容はいまや、主への熱烈な讃美に高められている。音楽は、人間のほめ歌う行為よりもはるかに、愛によるイエスの行為へと集中する。

Ich will von Jesu Wunder singen  
und ihm der Lippen Opfer bringen,  
Er wird nach seiner Liebe Bund  
das schwache Fleisch, den irdschen Mund  
durch heiliges Feuer kräftig zwingen

イエスの不思議な業をほめ歌い、  
彼に唇の捧げ物を献上しよう。  
イエスは愛の契りに従い、  
弱い肉と、世に汚れた口とを  
聖なる炎で奮い立たせてくださるだろう。

### 第10曲 コラール（合唱） ト長調

ヤーンのコラールの第16節が、第6曲と同じ音楽によって歌われて、カンタータを閉じる。このコラール編曲は、《主よ、人の望みの喜びよ》の題名でピアノ編曲されて有名である。

**J**esus bleibt meine Freude,  
**m**eines Herzens Trost und Saft,  
**J**esu wehret allem Leide,  
**e**r ist meines Lebens Kraft,  
**m**einer Augen Lust und Sonne,  
**m**einer Seele Schatz und Wonne;  
**d**arum laß ich Jesum nicht  
**a**us dem Herzen und Gesicht.

イエスは常に私の喜び、  
私の心の慰め、活力、  
イエスは全ての悲しみを防いでくださる、  
イエスこそ私の生命の力、  
私の目の喜び、そして太陽、  
私の心の宝、そして楽しみ。  
だから私はイエスを放さない、  
その御心もその御顔も。